



EUROPE

JAPAN

NORTH  
AMERICA

ASIA

AFRICA

SOUTH  
AMERICA

# 第108期 期末報告書

2013.4.1~2014.3.31

## CONTENTS

連結業績ハイライト／株主の皆さまへ  
中期経営計画(2013-2015)の推進

- 信頼されるグローバル企業を目指して

決算概要

株式概況／会社概況

証券コード 6470

 **大豊工業株式会社**

# 連結業績ハイライト

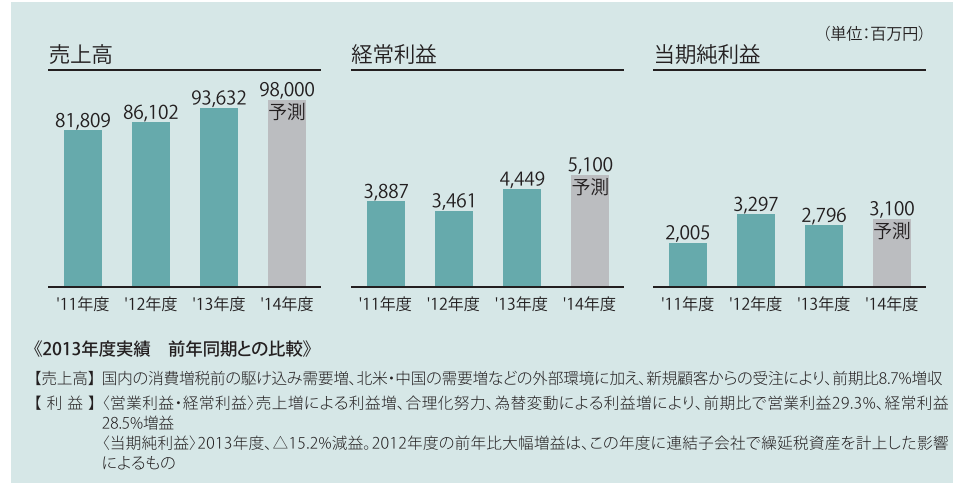
Financial highlight

## ■ 2013年度実績

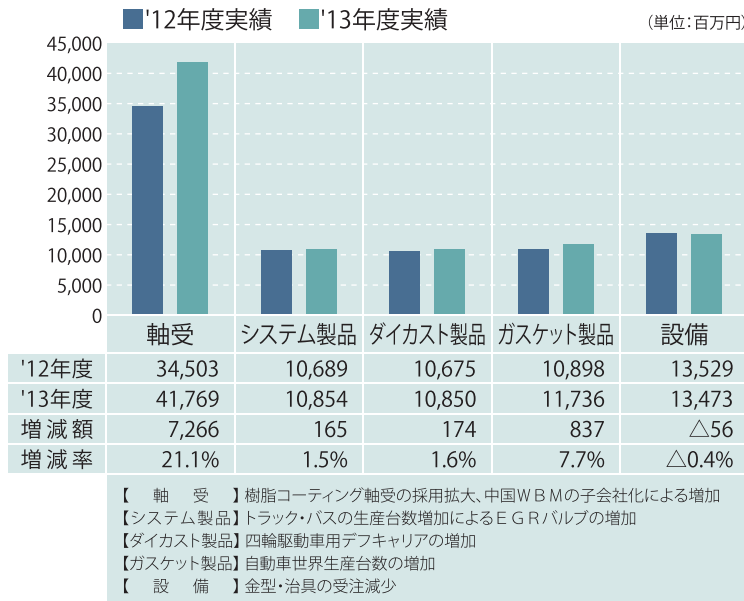
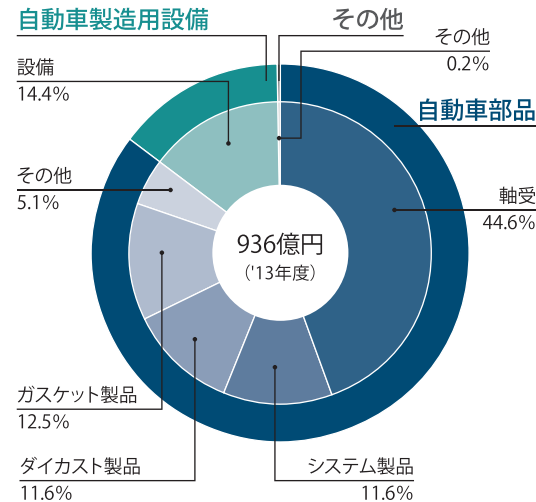
売上高 936億円  
 経常利益 44億円  
 純利益 27億円

## ■ 2014年度予測

売上高 980億円  
 経常利益 51億円  
 純利益 31億円



## ■ 事業別売上高



# 株主の皆さまへ

To stockholders

株主の皆さまには、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。  
 2013年度の期末報告にあたり、ご挨拶申し上げます。

## 【2013年度 実績】 新規受注と自動車生産台数の増加により、増収増益を確保

2013年度、国内生産はエコカー補助金終了による影響があったものの消費増税前の駆け込み需要増、海外生産はアジア圏の停滞があったものの自動車市場拡大に伴う需要増、好調な北米市場の継続、円安の定着により堅調に推移しました。  
 当社は、軸受の新規受注と自動車生産台数の増加により、売上高は前期比8.7%の増収、営業および経常利益はそれぞれ29.3%、28.5%の増益でした。

## 【2014年度 見通し】 生産性向上の強力な推進により、「中期経営計画」の2014年度目標値達成をめざす

2014年度、国内生産は消費増税の影響が懸念されますが、世界市場は引き続き生産増が見込まれます。一方で、生産の海外シフト、自動車部品におけるモジュール化等の流れは加速しています。  
 このような経営環境の中、当社は2014年度も海外を中心に新規生産ラインの立ち上げが続きます。したがって、確実な生産準備と継続した生産性向上を図る必要

があります。その一つとして国内外工場の自立化に向けて、1月「グローバル生産支援室」を編成し、海外現地生産化への対応と生産性向上を図ります。これらの取り組みにより、2014年度売上高980億円、経常利益51億円を目指します。

## 【将来に向けて】 2015年度「中期経営計画」の達成に向けて、新製品開発、販路開拓を推進

樹脂コーティング軸受は、国内外で幅広いお客様から好評をいただいております。売上を拡大しています。昨年度、欧州自動車メーカーから樹脂コーティングエンジンベアリングを新規受注、量産を開始しました。新製品では、「クランクスラスト用樹脂コーティングワッシャ」を開発し、量産を開始しました。また、子会社の日本ガasket(株)では新たに開発した「抄造樹脂ギヤ」の売上を拡大しています。  
 中期経営計画目標の達成に向けて、軸受の拡販と合わせて、バキュームポンプやEGRバルブをはじめとしたシステム製品の立ち上げを進めます。

## 2020年に向けて、新たに「VISION 2020」を策定

変化する社会に適応し持続的に成長するため、5月「VISION 2020」を新たに策定しました。「VISION 2020」では、①すべり軸受世界No.1、②システム製品のグローバルな

拡大の2つを柱としています。軸受を主力事業として強化するとともに、システム製品の開発、拡販、そしてグローバルな拡大を図ってまいります。これらにより、地球環境に貢献します。そのために、継続して人材・生産体制の強化に取り組みます。

本年12月、当社は創業70周年を迎えます。2010年以来、各種のインフラ整備を進め、今年度、従業員の福利厚生の一環として、新独身寮を建設しました。さらに託児所の建設を予定しています。これらを創業70周年記念事業と位置づけています。  
 70周年を期に2020年そしてその先につながる新たな事業を開拓、未来を切り開いていきます。

株主の皆さまには、引き続き、ご支持・ご鞭撻をお願い申し上げます。

2014年6月  
 代表取締役社長 上田建仁



## 会社方針

### 中期経営計画 (2013~2015年度)

#### ● 中期経営方針

#### ～ 信頼されるグローバル企業を目指して～

- ・ 強固な経営基盤のもと、継続的に新技術・新製品を開発する
- ・ 迅速な海外生産展開により良品廉価製品をグローバルに提供する

# 中期経営計画(2013-2015)の推進

We progress as a medium-term management plan (2013-2015).

信頼されるグローバル企業を目指して

Aiming for a trusted global enterprise.

2013年度は新たに設定した中期経営計画の初年度であり、「飛躍期」と位置付け、「VISION 2015」達成に向けた活動を推進しました。新製品開発、海外拠点の拡充、生産設備の増強など、着実に前進しつつあります。持続的成長、次の5年の成長に向けて「VISION 2020」を策定しました。製品・生産を介した社会・環境への貢献を目指して、国内外の活動を拡大、強化してまいります。

## 1.新製品の開発・量産

エンジンベアリングで培った技術を応用した「樹脂コーティング クランクワッシャ」を製品化しました。

本製品は大豊岐卓株式会社で量産を開始し、いくつかの低燃費エンジンに採用されています。



エンジンベアリングではさらなる高性能化を目指した新樹脂コーティング材料の開発を完了し、生産に向けた準備を進めています。

ターボチャージャー用部品として新たに、ベアリングセット、一体成形ダイアフラムを採用したWGV\*アクチュエータ、新鋳造法(回転鋳抜き中子)によるアルミダイ

キャスト製エルボを、新過給ガソリンエンジン用として受注しました。



バキュームポンプは、現モデルのシリーズ化を完了し、次期バキュームポンプの量産を開始しました。

シリーズ化・部品共通化活動が認められ、2月にトヨタ自動車株式会社より「TNGA (Toyota New Global Architecture) 推進優秀賞」を受賞しました。

※WGV:Waste Gate Valve



シリーズ化されたバキュームポンプ



トヨタ自動車豊田社長からTNGA推進優秀賞を授賞

## 2.生産体制の増強とグローバル化

軸受とシステム製品の拡大に合わせて、国内外で設備増強を進めています。軸受生産量は2013年度末で、エンジンベアリング3.6億枚/年の生産能力となりました。

これら軸受ラインは、当社(計画)、大豊精機株式会社(設計・設備製作)、株式会社ティーイーティー(治具製作)の協業体制で製作されます。また、加工機や搬送部、検査機器の能力や精度を検証するラインを設置して、グローバル標準ラインの完成度を高めています。



検証ライン

非軸受製品では、日本ガasket株式会社でシリンダヘッドガasketの海外生産を開始するとともに、滋賀工場で樹脂ギヤラインの生産能力を増強しました。

タイハウ コーポレーション オブ タイランドの新工場ではバキュームポンプの生産準備を開始しました。



稼働間近のタイハウコーポレーション オブ タイランドの新工場

## 3.グローバル拡販

樹脂コーティングエンジンベアリングを中心に、海外自動車メーカーへ積極的な拡販を進めた結果、2009年比約1.5倍の売上を達成、今後も新規受注が増加する予定です。

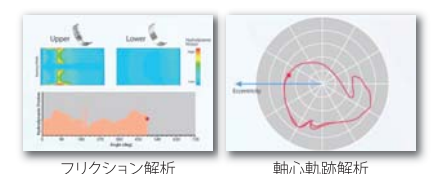
国内メーカーにおいても低燃費エンジンへの採用が相次ぎ新規受注が増加しています。



バリエーションが広がった樹脂コーティング軸受

## 4.新規分野への挑戦

当社のコアテクノロジーであるトライボロジーを応用した潤滑解析システムを構築、これにより潤滑系部品の開発から設計・製品化までのスピードが向上しました。



大豊精機株式会社では、「シンプル・スリム・エコロジー」をテーマに、コンパクトプレス機、ロボット協調によるコンパクト溶接機などの独自開発を進めています。

また、既存設備のT-MACによる3次元実体スキャンデータと新規設計の3次元CADデータを統合、新旧設備の組合せ設置をシミュレーションできるバーチャルファクトリーシステムを実用化しました。



国際ウエルディングショー2014でのPR

## 「VISION 2015」ロードマップ





# 中期経営計画(2013-2015)の推進

We progress as a medium-term management plan (2013-2015).

信頼されるグローバル企業を目指して

Aiming for a trusted global enterprise.

## 5.「VISION 2020」を策定

リーマンショック後の世界経済の低迷や自動車産業を取り巻く環境変化の中、大豊グループは「VISION 2015」を掲げて多くの課題解決に取り組み、今日の姿を築いてきました。2013年度から2015年度にわたる中期経営計画の目標達成をもって「VISION 2015」を完結させる予定です。

そして今、次の世代に向けた継続的な発展を目指し、「VISION 2020」を策定し

ました。「VISION 2020」では、社会や環境への貢献を企業活動の目的とし、軸受生産のグローバルな拡大を続けるとともに、

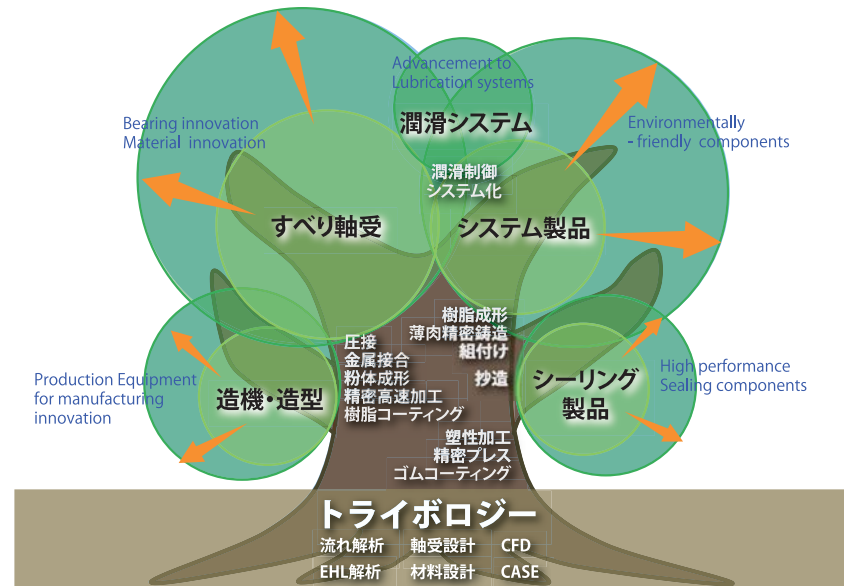
VISION 2015で構築した大豊グループのリソース

すべり軸受No.1 環境ブランド獲得



VISION 2020イメージ

多様な製品群で地球環境とお客様に貢献する



システム製品の開発を一層強化し、グローバル生産への拡大を図ってまいります。人、技術、生産の力で、持続した会社成長を支えます。

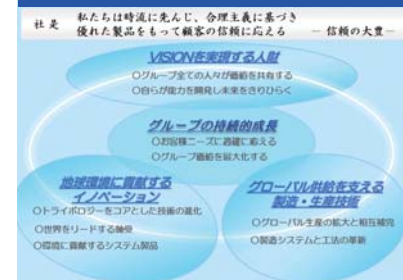
新製品をグローバルなお客様にお届けし 売上拡大を目指す



地球環境とお客様への貢献により 「持続的な成長」を実現する



VISION2020達成に向けた「活動の3軸」



2013年度にスタートした中期経営計画は、2014年度で2年目に入ります。活動の3軸の中に「生産拠点の自立化」と「事技部門の生産性向上」を加えて、中期目標達成に向けた諸活動を展開していきます。

信頼されるグローバル企業を目指して

- 強固な経営基盤のもと、継続的に新技術・新製品を開発する
- 迅速な海外生産展開により良品廉価製品をグローバルに提供する

### ①製品・製造領域のグローバルな拡大

- 軸受のグローバル市場を的確に把握し、適時・適地に適確な製品を供給する
- 資源・環境動向を先取りした製品を開発・提供し社会に貢献する
- 生産拠点の自立化により、グローバル生産体制を強化する

### ②製品技術・生産技術の革新

- トライボロジーを軸に軸受から潤滑システムへ技術領域を拡大する
- グローバル競争に勝ち抜く、革新的標準ラインを構築する

### ③人財力の強化

- マネジメント力を向上する
- 社員が自ら成長できる育成環境と会社風土を創造する
- 事技部門の生産性を画期的に向上する

2014年度に追記した項目

## CSR-トピックス

### 創業70周年記念事業

1944年12月にわずか38名で発足した当社は今年で70周年を迎え、国内外グループ会社連結で約4,000人の規模となりました。

企業として、社会的責任の大きさを全社員が再認識し、ステークホルダー全てに満足していただき、継続的に発展し続けられる会社になることを期して、さまざまな記念事業を展開してまいります。



1944年 創業当時の本社

### 主な創業70周年記念事業

新独身寮「オアシス緑ヶ丘」が完成、4月より運用開始



託児所の開設 (2015.4予定)を決定



託児所完成イメージ

### 社外取締役制度を導入

経営意思決定の透明性を高めることで、コーポレート・ガバナンスの強化を図るため、6月から社外取締役制度を導入しました。当社初の社外取締役には、香川大学学長特別顧問の木村好次氏が就任しました。

木村氏は当社のコア技術「トライボロジー」研究における第一人者であると同時に大学経営の経験者で、同氏の技術と経営の両面における豊富な知識と経験を活かした監督と助言をもとに、適切な意思決定を行うことを目的としています。

# 決算概要

Financial Statements

## 連結貸借対照表

単位:百万円

科目	当連結会計年度末 2013年3月31日現在	前連結会計年度末 2013年3月31日現在
<b>【資産の部】</b>		
<b>流動資産</b>	<b>49,935</b>	<b>40,787</b>
現金及び預金	18,916	13,052
受取手形及び売掛金	16,907	15,406
たな卸資産	8,551	7,347
繰延税金資産	1,424	1,291
その他	4,336	3,862
貸倒引当金	△ 200	△ 172
<b>固定資産</b>	<b>51,062</b>	<b>47,249</b>
有形固定資産	44,282	40,962
建物及び構築物	10,670	10,515
機械装置及び運搬具	13,853	13,618
土地	13,339	13,049
建設仮勘定	5,109	2,708
その他	1,309	1,069
無形固定資産	1,459	1,391
投資その他の資産	5,320	4,894
<b>合計</b>	<b>100,997</b>	<b>88,037</b>

【流動資産】当連結会計年度末における流動資産の残高は49,935百万円であり、前連結会計年度末に比べ9,147百万円増加しております。現金及び預金の5,863百万円の増加、受取手形及び売掛金の1,500百万円の増加、たな卸資産の1,204百万円の増加、電子記録債権の282百万円の増加が主な要因であります。

【固定資産】当連結会計年度末における固定資産の残高は51,062百万円であり、前連結会計年度末に比べ3,812百万円増加しております。建設仮勘定の2,400百万円の増加、投資有価証券の325百万円の増加、土地の289百万円の増加、機械装置及び運搬具の235百万円の増加が主な要因であります。

科目	当連結会計年度末 2014年3月31日現在	前連結会計年度末 2013年3月31日現在
<b>【負債の部】</b>		
<b>流動負債</b>	<b>28,477</b>	<b>22,416</b>
支払手形及び買掛金	12,730	11,800
短期借入金	836	462
未払費用	4,380	4,494
その他	10,530	5,658
<b>固定負債</b>	<b>18,552</b>	<b>16,672</b>
長期借入金	16,382	14,512
退職給付引当金	—	1,092
退職給付に係る負債	958	—
その他	1,211	1,066
<b>負債合計</b>	<b>47,029</b>	<b>39,088</b>
<b>【純資産の部】</b>		
<b>株主資本</b>	<b>51,566</b>	<b>49,314</b>
資本金	6,440	6,327
資本剰余金	9,909	9,796
利益剰余金	35,408	33,380
自己株式	△ 191	△ 190
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>1,717</b>	<b>△ 870</b>
その他有価証券評価差額金	942	686
為替換算調整勘定	878	△ 1,557
退職給付に係る調整累計額	△ 103	—
<b>新株予約権</b>	<b>41</b>	<b>62</b>
<b>少数株主持分</b>	<b>641</b>	<b>442</b>
<b>純資産合計</b>	<b>53,967</b>	<b>48,948</b>
<b>合計</b>	<b>100,997</b>	<b>88,037</b>

【流動負債】当連結会計年度末における流動負債の残高は28,477百万円であり、前連結会計年度末に比べ6,061百万円増加しております。1年内返済予定の長期借入金の3,295百万円の増加、設備未払金の972百万円の増加、支払手形及び買掛金の929百万円の増加、未払法人税等の700百万円の増加が主な要因であります。

【固定負債】当連結会計年度末における固定負債の残高は18,552百万円であり、前連結会計年度末に比べ1,879百万円増加しております。長期借入金の1,869百万円の増加が主な要因であります。

【純資産】当連結会計年度末における純資産の残高は53,967百万円であり、前連結会計年度末に比べ5,019百万円増加しております。為替換算調整勘定2,435百万円の増加、利益剰余金の2,028百万円の増加、その他有価証券評価差額金の256百万円の増加が主な要因であります。

## 連結損益計算書

単位:百万円

科目	当期連結累計期間 2013年4月1日から 2014年3月31日まで	前期連結累計期間 2012年4月1日から 2013年3月31日まで
<b>売上高</b>	<b>93,632</b>	<b>86,102</b>
売上原価	77,132	71,330
販売費及び一般管理費	12,337	11,553
<b>営業利益</b>	<b>4,162</b>	<b>3,219</b>
営業外収益	767	687
営業外費用	479	445
<b>経常利益</b>	<b>4,449</b>	<b>3,461</b>
特別利益	52	108
特別損失	50	128
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>4,451</b>	<b>3,441</b>
法人税、住民税及び事業税	1,632	716
<b>法人税等調整額</b>	<b>△ 95</b>	<b>△ 657</b>
<b>少数株主損益調整前当期純利益</b>	<b>2,914</b>	<b>3,381</b>
<b>少数株主利益</b>	<b>117</b>	<b>84</b>
<b>当期純利益</b>	<b>2,796</b>	<b>3,297</b>

## 連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

科目	当期連結累計期間 2013年4月1日から 2014年3月31日まで	前期連結累計期間 2012年4月1日から 2013年3月31日まで
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>7,605</b>	<b>7,279</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 7,408</b>	<b>△ 5,721</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>4,673</b>	<b>△ 1,140</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	282	184
<b>現金及び現金同等物の増減額</b>	<b>5,153</b>	<b>602</b>
現金及び現金同等物の期首残高	12,698	12,095
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>17,852</b>	<b>12,698</b>

## 年間配当金

2014年4月24日開催の取締役会において、2014年3月31日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対して行う期末配当金につき、次のとおり決議しました。

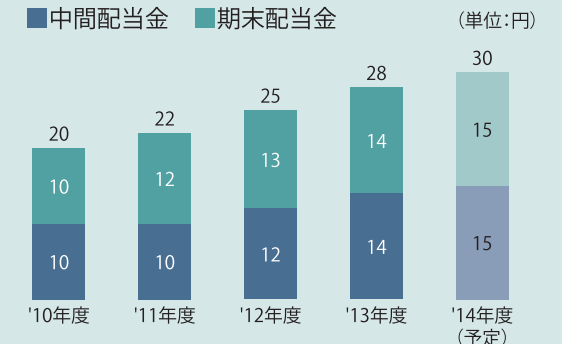
### ① 期末配当金

1株につき14円

### ② 効力発生日ならびに支払開始日

2014年6月13日

### 1株当たり年間配当金



株主の皆さまへの利益還元と事業の成長および経営基盤の強化のための内部留保を総合的に勘案し、長期にわたり安定的な配当の継続を基本に考えています。

内部留保した資金は、将来にわたる株主利益を確保するため、将来の事業成長のための投資および財務体質の強化に活用していきます。

期末配当金を昨年よりも増配し、14円とさせていただきます。なお、2014年度の年間配当金は、30円を予定しています。

# 株式概況 (2014年3月31日現在)

Stock information

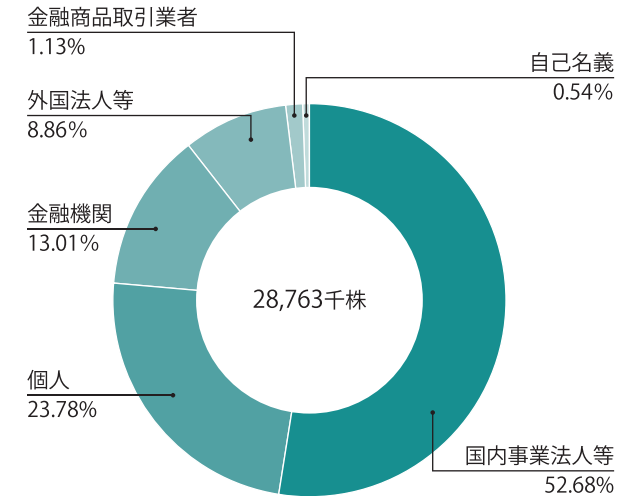
## 株式の状況

発行可能株式総数 48,400千株  
 発行済株式の総数 28,763千株  
 株主数 4,808名

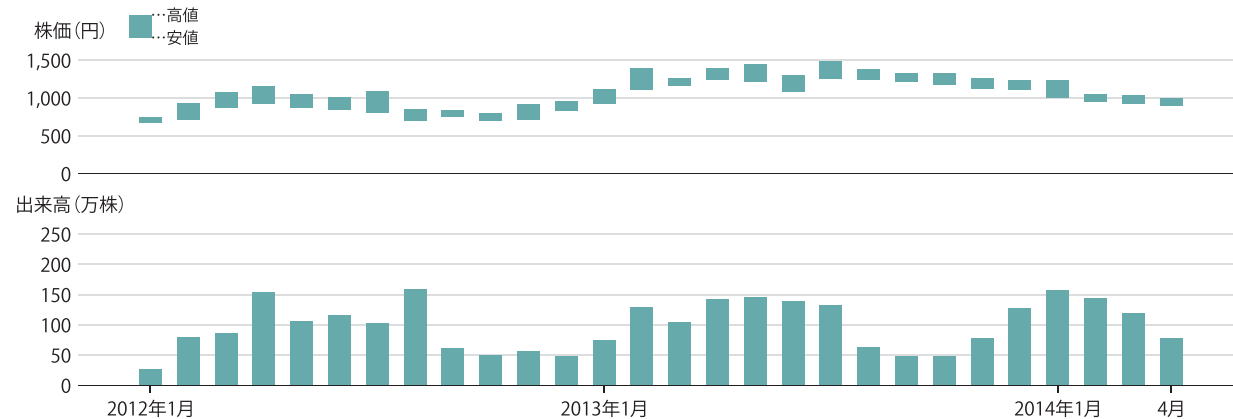
大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)
トヨタ自動車株式会社	9,676
株式会社豊田自動織機	1,427
日本発条株式会社	1,344
豊田通商株式会社	1,071
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	787
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	776
大豊工業従業員持株会	466
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	465
ザバンクオブニューヨークメロン(インターナショナル)リミテッド131800	330
野々山秀夫	305

## 所有者別株式分布状況



## 株価の推移



# 会社概況 (2014年3月31日現在)

Corporate profile

## 会社概要

創業 1944年12月  
 資本金 64億4千万円  
 従業員数 連結:3,910名 単独:1,680名  
 本社所在地 〒471-8502  
 愛知県豊田市緑ヶ丘3-65  
 TEL (0565) 28-2225 (代表)  
 事業内容 軸受製品、ダイカスト製品、ガasket製品  
 組付製品他、精密金型  
 上記の製造および販売

## 事業所および営業所

本社/本社工場(愛知県豊田市)  
 細谷工場(愛知県豊田市)  
 篠原工場(愛知県豊田市)  
 幸海工場(愛知県豊田市)  
 九州工場(鹿児島県出水市)  
 東京営業所(東京都中央区)  
 大阪営業所(大阪府大阪市)

## 国内子会社

大豊精機株式会社(愛知県豊田市)  
 日本ガasket株式会社(愛知県豊田市)  
 大豊岐阜株式会社(岐阜県可児郡御嵩町)  
 株式会社ティーイーティー(愛知県春日井市)  
 株式会社タイホウライフサービス(愛知県豊田市)  
 株式会社タイホウパーツセンター(岐阜県土岐市)

## 主な海外子会社

タイホウ コーポレーション オブ アメリカ(アメリカ)  
 タイホウ ヌサンタラ株式会社(インドネシア)  
 タイホウ コーポレーション オブ ヨーロッパ 有限公司(ハンガリー)  
 韓国大豊株式会社(韓国)  
 大豊工業(煙台) 有限公司(中国)  
 タイホウ コーポレーション オブ タイランド(タイ)  
 常州恒業軸瓦材料有限公司(中国)

## 取締役 (2014年6月12日現在)

代表取締役社長 上田 建仁  
 代表取締役副社長 杉原 功一  
 専務取締役 村井 茂  
 専務取締役 山崎 謙一  
 専務取締役 近藤 隆彦  
 専務取締役 川上 真也  
 専務取締役 楠 隆博  
 社外取締役 木村 好次

## 監査役 (2014年6月12日現在)

常勤監査役 佐藤 章雄  
 常勤監査役 神谷 莊司  
 社外監査役 白柳 正義  
 社外監査役 高見 達朗  
 社外監査役 安田 益生

## 執行役員 (2014年6月12日現在)

常務執行役員 原田 淳  
 常務執行役員 川治 豊明  
 常務執行役員 河合 信夫  
 常務執行役員 佐藤 光俊  
 常務執行役員 高間 建一郎  
 執行役員 大河内 光人  
 執行役員 吉井 利治  
 執行役員 岸 吉信  
 執行役員 出崎 亨  
 執行役員 粟津 滋喜

## ■ 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
期末配当金支払株主確定日	3月31日
中間配当金支払株主確定日	9月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
お問い合わせ先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部 名古屋証券取引所市場第一部
ホームページ	<a href="http://www.taihonet.co.jp/">http://www.taihonet.co.jp/</a>

## ● 株式関係のお手続きについて

1. 株式関係のお手続きにつきましては、お取引先の証券会社までご連絡ください。また、特別口座で管理されている株につきましては、特別口座管理機関の三菱UFJ信託銀行までお問い合わせください。
2. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

 **大豊工業株式会社**

お問い合わせ先 TEL (0565) 28-2225 (代) 総務部広報室